

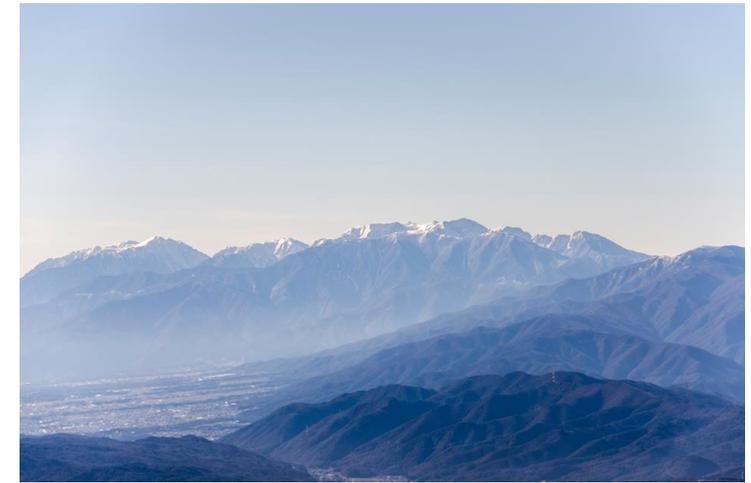
19 中央アルプス県立公園の国定公園化について

【環境省】

長野県の状況

● 関係者との協働による魅力ある自然公園づくりと地域振興

- ・中央アルプスは、地元要望により県立公園に指定（昭和26年11月22日）
- ・インバウンドや山岳のユニバーサルツーリズム、上質な自然体験など、多様化する利用者のニーズに応じた取組が必要
- ・半世紀ぶりにライチョウの個体が確認され、復活に向けた生息環境の改善が必須
- ・環境大臣に対し、国定公園の指定を申出（平成31年3月28日）



中央アルプス県立公園遠望

取組

○ 「中央アルプス自然公園保護・活用推進協議会」による合意（H28.2～）

⇒関係者で構成される協議会を設置し、希少な動植物など自然環境の保護を一層図るとともに、公園全体の利活用を図るため、**国定公園化を目指すことに合意**

○ 「中央アルプスセミ・ナショナルパーク構想」の策定（H31.3）

・国定公園化を契機とした中央アルプスの保護と利活用の方向性を策定

○ 総合的な安全登山の推進

- ・企業からの寄付金等を活用し、**持続的な安全登山のための整備を支援**
- ・ブランド化と安全登山のため、**道標のデザイン統一を推進**



登山道整備補助金額(単位:千円)

H27	H28	H29	H30	H31 (予定)	計
5,926	6,093	6,090	4,605	13,717	36,431

整備前



整備後



デザイン統一された道標

【統一デザイン基準項目】

- ① 構造
- ② 材料
- ③ 記載事項
- ④ アイキャッチ
- ⑤ 使用言語
- ⑥ ナンバリング



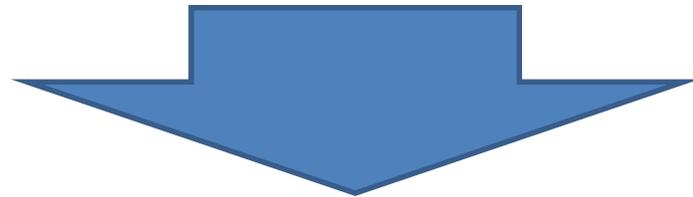
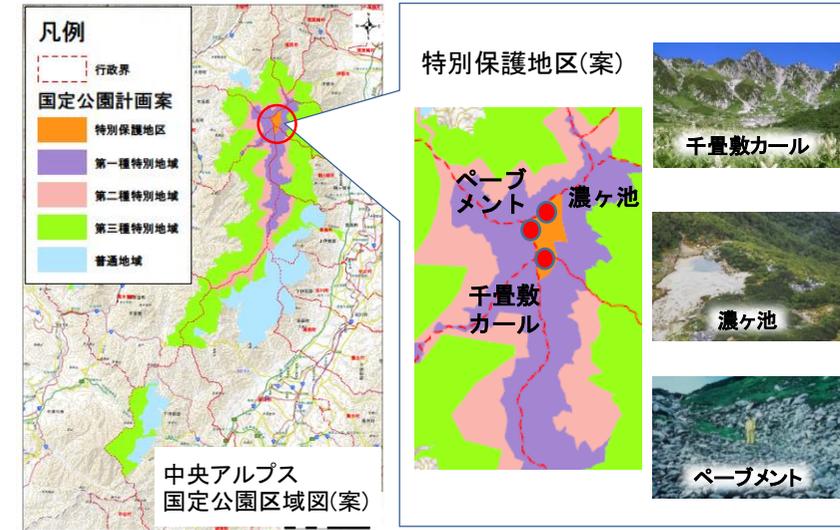
H30.12.27
信濃毎日新聞

○ ライチョウ生息環境の改善（H31～）

- ・ライチョウの生息しやすい環境を整えるため、キツネやテンなど捕食者を呼び寄せるごみの持ち帰りマナー啓発を、**環境省やボランティアと協力して実施予定**

課題

- 中央アルプス県立公園は国内でも有数の氷河地形を有しており、多くの観光客が訪れる中、**希少な自然が人為の影響を受けやすくなっている**
- 「3つのアルプス」のうち、国立公園に指定されている北アルプス（中部山岳）・南アルプスと比べて、中央アルプスは知名度が低いことから、**インバウンドを含めて誘客に結びつくチャンスに恵まれていない**
- 国立公園化を契機として公園全体の保護・利活用策を推進するに当たり、外国人や高齢者、障がい者など**多様な利用者を受け入れるユニバーサルな環境整備が進んでいない**
- ライチョウ絶滅山域においても、他山域から個体が飛来するなど生息可能な環境が存在していると考えられるが、他山域からの個体導入等中央アルプスでライチョウを復活させるに当たっては、**長野県だけでは知見や技術が足りないだけでなく、財源やマンパワーも不足している**



上野動物園で飼育されているライチョウ



提案・要望

1 中央アルプス国立公園（仮称）の早期指定

特別保護地区を設定して希少な自然を保護するため、また、国立公園の新規指定は、知名度の向上につながるなど地域に与える影響が非常に大きいことから、早期に指定すること

2 国立公園化を契機とした保護・利活用の取組への財政支援

中央アルプス県立公園の国立公園化は、地域振興だけでなく日本全体のインバウンド効果にも資することから、国立公園化を契機に取り組む保護・利活用策「中央アルプス セミ・ナショナルパーク構想」を着実に推進するため、国際観光旅客税等を財源とする財政支援を行うこと

3 ライチョウ復活に向けた取組の充実

環境省が南アルプスで実施しているケージ保護等の捕食者対策が、ライチョウの生息環境向上に成果を上げていることから、中央アルプスにおいても、ライチョウの復活に向けた取組を充実すること